

宮城学院女子大学

英文学科

Number 6

2004年3月17日

TOEIC に挑戦!

From the Editor

LET ME BEGIN BY congratulating the nine MG English Department students who met the conditions for the TOEIC II credit as well as all the students who worked hard throughout the year to improve their English abilities and achieve higher test scores. Learning a foreign language is an extremely difficult and time-consuming task and you are all to be applauded.

This has been a year with several changes in the TOEIC system at MG. We moved the main date of the test to June for two main reasons. First, having the test earlier in the year would be helpful for fourth year students who need to submit their TOEIC scores for job applications. Although not all jobs require English skills, more and more companies are finding it beneficial to have employees with good English skills and TOEIC scores are the most widely accepted measure of English ability in Japan in the business world. A second reason for moving the TOEIC from December to January was to give more motivation to students to improve their scores. When the test was held in December, students received their scores in January and then had a long Spring vacation during which time the TOEIC was often forgotten. Having the test in June allows students to get their scores in the first semester so they can see the areas that they need to work harder on in the second semester. Hopefully the change in the test date was able to achieve these two goals.

Another new addition this year was the TOEIC Study Group. In the first semester, Akiko Ujiie, a 2003 graduate, was in charge of the study group in which about 70 students in total participated in different sessions. They worked on grammar, vocabulary, reading, and listening. Having a graduate of the English Department was very motivating for the students because it allowed them to see someone like themselves who had succeeded in achieving an extremely high level of English proficiency. In addition, because the study groups each had a fairly small number of students participating voluntarily, they were able to be active and enjoyed the time learning together. The TOEIC study group continued in the second semester with Yuka Aizawa, a 2001 graduate. Grammar and vocabulary were the focus and Yuka gave the students another excellent role model to follow. Overall, the study group gave students an opportunity to become more independent learners which hopefully will continue to benefit them in their future studies. All the students who made the time and effort to join in the study group should be proud of their commitment.

Following in the spirit of the TOEIC study group, a group of second-year students decided to meet intensively during the Winter vacation to work on their English speaking and reading skills. They met for five days, for about five hours each day. They used only English to discuss the ideas from short articles that they chose to read. It was a difficult challenge for them, especially at first, but they did a wonderful job of not using Japanese and had a great time together. These types of student-run groups are perhaps a necessary part of successful language learning at the university level.

Another new addition to English learning at MG was the graded-reader library. A fourth-year student, Tae Yabuki, discovered that reading books with simplified grammar and vocabulary could be a great way to improve her English ability. She made a proposal to the English Department to buy a large library of books that students could use for extensive reading practice. The library has graded-readers from level 1 to level 6. Many students made use of this library, often reading about one book every week. This helped them with expanding their vocabulary and reinforcing their grammar knowledge.

The reports that follow show a wide range of language learning methods that should be informative and stimulating, helping everyone to improve their English abilities.

Chris Huston

March 17, 2004

TOEIC

英文学科3年 吉浦 愛

三年次スコア 695点 二年次スコア 565点 一年次スコア 455点

私は、文法が大の苦手です。本屋に入っても、問題集のおいてあるコーナーに快く足を運んだことがありません。実際、1, 2年次のTOEICのスコアにもそれは100点以上の差となって表れていました。Listeningは、映画好きな私にとって楽しいものです。戦争やアクション映画は俗語や専門用語ばかりでほとんど聞き取れません。ラブストーリーやヒューマンドラマは身近に使えるフレーズが私たちの日常生活そのものを英語に置き換えることができます。そこで私がいつも気をつけていることは、その人が何を伝えようとしているのかを真剣に聞くということです。「あー聞こえなかった、早口だもん。」とか、「なんか難しいこと言っているよ。」と一瞬耳をふさいでしまわないように努力しています。DVDは英語で聞いて英語で字幕が見られます。聞き取れなくても字幕が助けてくれるので、巻き戻す必要はありません。好きな俳優や女優がでていると絶対聞き逃したくないと思います。しかし、かたくなにそんなことをし続けていると嫌気がさしてきます。そんな時は、洋楽に浸ります。

また、セミナーでは英語でかかれた本について英語で討論しています。何事も奥手の私ですが、自分の意見を発表できたときは満足感と達成感でいっぱいです。英語に置きえて考えるということも学びました。セミナーの先輩方がこのTOEIC IIをとられて、小冊子に載られていたのを見たのは確か3年の始めて、自分もと強く思ったのを今でも覚えています。文法嫌いの私が、英検に向けて勉強を少しずつ始めたのもそのころです。夏休みは、毎日勉強しました。この文法を克服すれば自分に大きな収穫になると考えベッドの上にあぐらをかいたり、ベランダに足を放り投げたりしながらも毎日問題集と向き合いました。

英検は不合格でしたか、そのことはTOEICに予想以上に大きく還元され自分でもびっくりです。大嫌いだった文法が大きな利益を与えてくれました。今年も私の課題は英検に受かること、TOEICのスコアをさらに上げることです。

私のTOEIC学習方法

英文学科4年 西條 恵美

四年次スコア 660点 三年次スコア 545点 二年次スコア 450点 一年次スコア 355点

私は大学に入学するまでTOEICを一度も受験したことがありませんでした。一度目の試験では全く勉強しないまま受験しました。そのためリスニングのスピードの速さには全くついていけませんでしたし、リーディング問題も20問近く解けずに終わってしまいました。当然のようにスコアは低く、自分の英語力の低さにショックを受けました。私がTOEICの重要性を感じ始めたのは、就職活動を始めた3年生になってからです。今はTOEICのスコアを重視している企業もたくさんありますし、何よりも自分が大学で勉強してきたことをTOEICのスコアという形にすることは大切だということに気がきました。そして低いスコアを取りながらも全く勉強していなかったことを反省し、勉強を始めました。

私はリーディングのスコアがリスニングのスコアよりも100点近く低かったため、リーディングに力を入れて勉強しました。まず、TOEICのリーディング部分だけに的を絞った問題集を購入し、何度も繰り返して解きました。ところが、私の場合は元々の英語力が低かったために何度繰り返してもこの勉強法はあまり効果がありませんでした。分からない単語や構文が多すぎて、時間内に読もうとすると内容がよくつかめず、内容をつかもうとするとたくさんの単語をその都度辞書で引きながら読まなければならなかったからです。そこで、長文を読むよりも先に単語やイディオムの知識を付けることにしました。TOEICによく出る単語やイディオムの問題集もたくさん出ているので、私はそういった問題集を利用して勉強していきました。ある程度単語やイディオムを覚えた後に長文を読むと以前よりも大分理解することが出来まし、文章を読むスピードも自然と速くなりました。最初のうちは内容の分からない長文をひたすら読むだけで勉強が苦痛でしたが、内容が分かってくると長文を読むことが嫌ではなくなりました。また、リーディングの時間配分としては、穴埋め問題などを出来るだけ早めに解いて、長文問題に多くの時間を残せるように心掛けました。文法・語彙問題に15分、誤文指摘問題に10分を目安にすると、長文問題に50分の時間をとれるので、その時間内に各問題をこなしていけるようになりました。常に時間を意識しながら勉強すると、試験の時に時間がなくなるということも少しづつなくなっていきました。

私がTOEICのスコアを上げるために大切だと思うのは、自分の苦手な問題を自覚して効率よく勉強するということです。それから、時間配分を決めてTOEICのスピードに対応することも大切だと思います。

私はこれからも上のスコアを目指して日々学習を続けていきたいです。

私の TOEIC 学習法

英文学科 2 年 田山 絵美子

二年次スコア 600 点 一年次スコア 450 点

私はこのスコアをとるためだけに特別高いお金を払ったり、時間を費やしたわけではない。スコアをあげるの一番効果的なのは留学など、一定期間英語のなかに自分の身をおくことだと思う。しかしそう簡単に海外に行ける訳ではない。ならどうしたらいいかという自分の置かれている環境に最大限英語を取り込むことだ。そこで私は日ごろの授業態度や家での過ごし方を振り返ってみた。すると気の抜けた授業態度や怠惰な日常生活が浮き彫りになり、すべきことは明確になった。まず授業に対する取り組みをどうにかしなくてはならない。授業中の態度をあらためることはもちろん、授業を選ぶときも楽なものを選んで自分を甘やかすより、難しいものを選択し自分を鍛えた。自分の現状に甘んじることなく常にある種の危機感を抱いていたほうが向上心を保てると思ったからだ。

次に家での生活にどう英語を取り込んだかと言うと、ひとつに「TIME」の購読があげられる。気が向いた時に書店で購入するのではなく購読するのがポイントだ。購読すると週に一度の間隔で送られてくるし、まとまったお金を払ったことで「読まなければ、」という意識も生まれた。「TIME」の内容は国際情勢のような難しい話から私達の年代が興味を持つような読み物まで様々で、おのずと基本単語はもとより国際社会でよく使われている用語も習得できる。それに多くの文を読むことで英文の切れ目などがつかめるようになり、同時に文の要点もつかみやすくなった。購読すると一冊あたりの値段もかなり安くなるので購読してよかったと思う。また音楽を聴くときも、ただなんとなく聴くのではなく、歌の歌詞、発音に注意してみた。その後に歌詞をチェックすると、自分が思っていた単語ではないことがほとんどで実際にネイティブが発音するところ聞こえるのか、と勉強になる。その他にもテレビで気になる単語が使われていたらすぐに辞書をひいたりもした。興味のあるものは記憶に残り易いのでいまだにそこで覚えた単語は忘れられない。

このように私の TOEIC 学習法は、決してのみに TOEIC だけに固執するものではなく英語力を高めようと努力した過程がトイック学習につながっている。TOEIC のスコアを上げるためのテキスト学習だけではなく、生活やモチベーションに合わせた自分にあう学習法を見つけることが大切だと思った。

TOEIC、やっぱり日々是精進

英文学科 4 年 高野 久美子

四年次スコア 740 点 三年次スコア 655 点 二年次スコア 560 点 一年次スコア 525 点

今回再び85点のスコアを伸ばしに成功。三年次に一度90点あげたものの、そこから先は点数が伸びるのに結構時間がかかり700点台に辿り着くまでは半年近くもの歳月をかけたように思います。

今回再び点数を上げることが出来たのは、私自身、宮城学院の良い勉強環境を生かしたからだ、と断言できます。一年生や二年生の頃の私は、単に学校へ行って、授業に出て単位を得れば全てOK!といった日々消化タイプの学生でした。そのため毎日いかに早く帰宅するか、ということばかりを考え、全く大学に、そして勉強に自身を専念させていませんでした。それが TOEIC の点数にも反映したのです。よく考えれば日々消化タイプの学生であった私が TOEIC で得点をとろうなど虫の良い話でした。しかし三年になりゼミが始まると、回りの人々がいかに英語に対して自ら積極的に取り組んでいるかということを目にしました。長い英文をきちんと読んでくる、授業中の意欲的な態度、そして自発的に開いた勉強会。こういった先輩学生達がおのずと苦勞しながらも英語を勉強している姿を見て、はじめて「大学」を見た気がしました。苦勞して勉強したことなんてなかった私の大学生活は、そこからがスタートでした。まず単語を徹底的に覚えること(お勧め、前回も書いたが、旺文社のターゲット1900。これは本当に試す価値あり。しかし1日に100個覚えても2ヶ月はかかるので、長期戦となりうる。)授業で出された長い英文記事をきちんと読むこと(読書もよい。レベルは高くないほうが持続に困難を要しない)、授業の質問をきちんとすることから始めました。(更に具体的な勉強法は前回のレポートにて)もちろんこれらの作業はやったからといって TOEIC の結果がすぐ出るわけでもないし、短時間で終わるものでもありません。手っ取り早く点数をあげようとすると思って伸びないもので、もちろん精神的苦痛も伴います。しかし苦勞するからこそ得るものは大きく、あきらめないで継続するからこそ、努力が報われたときの喜びをかみ締められるのではないのでしょうか。遊佐先生に卒業論文を添削していただき、ヒューストン先生の上級英会話や基礎セミナーで長い記事や本を読んだこと、先輩がひらいて下さった勉強会がこの苦しかった700点の壁を越える原動力となりました。本当に感謝しております。

宮城学院には本当に良い勉強環境があります。学会室の private library でもまだ冊数は少ないですが、英語の本を貸し出しています。(TOEIC の点数が上がる一番の秘密は読書と、最後に再び述べるがターゲット1900)。要はそういった良い環境に気付くか、それとも見過ごすか、で四年間決まります。TOEIC はやっぱり日々是精進です。毎日の一步一步がスコアの一点一点になると信じ、いつか賞賛に値されるスコアをとりたいと思います。

「妥協しない精神で！」

英文学科4年 齊藤 杏子

四年次スコア 815点 三年次スコア 695点 二年次スコア 570点 一年次スコア 405点

入学してからずっとTOEIC800点を大学時代の目標にしてきたので、今年度この冊子によりやく自分のレポートが載せられることが嬉しいです。書きたいと思うことはたくさんあるのですが、一番に言いたいことは私の目標点数達成にとって最も重要であったことは「妥協しない精神」だということです。

ここでは具体的な私のTOEICに向けての学習方法は書きません。人それぞれ英語力も性格や趣味や得意不得意分野や生活パターンが違うのだから、その人その人に合ったやり方を見つけていくことが必要だと思うからです。私の周りにいる人達を例に挙げても、授業や勉強会に積極的な態度で参加する、英語で読書する、英語で会話をする、辞書をすぐに引くようにする、TOEICの問題集を徹底的にやる、英会話スクールに通う、単語を詰め込む、DVDを英字幕で見る、卒業論文を書く、文法の基礎からやり直す、ラジオ(テレビ)講座、等一人一人が違ったやり方で勉強し、成果を上げているように思います。

ただ、共通して言える大切なことは「妥協しない気持ち」ではないでしょうか。自分が「これなら英語力が伸びそうだな」と思うような方法があれば、すぐにその方法を行動に移す、そして決して妥協しないで続けることだと思います。私自身も、特に3年次の点数から800点台に達するまでの期間程この妥協しない精神の大切さを感じたことはありませんでした。私は2年次から約1年間の交換留学の機会を与えられ、その留学は英語力という面だけでなく私にとってターニングポイントと言える位のかけがえのない経験で、自信を持って最高だったと言えるものでした。にも関わらず自分の中の感動や経験等が実際眼に見える数字にならず周りと比較して焦っている時にふと「勉強の方法」にばかり目を向けず、「勉強への向かい方」を変えるということを意識し始めました。私はすぐに他のことに目移りし元々甘えがあるので妥協せずに続ける姿勢でいることは決して今でも簡単なことではありませんが、約1年間、とにかく自分でやると決めたことに対しては納得いくまで続けたつもりです。振り返ってみても今回のスコアアップの裏側には、その勉強した中身以上に自分の気持ちがあったと言えます。一度にたくさんのをやるぞと決心しても続かないので、2,3個のことで充分だと思います。私の場合はその中でヒューストン先生の上級英会話と、4年次参加させて頂いたアメリカ文化基礎セミナーの割合が多くを占めていました。

これから先も900点という目標に到達する為、自分自身でこれが良いのだ、正しいのだと信じられて決めたことに対して「妥協しない精神」で常に学ぶ姿勢でいたいと思います。

自己流の勉強法

英文学科3年 氏家 麻里

三年次スコア 735点 二年次スコア 605点 一年次スコア 630点

私は、2年次に受験したTOEICまでは、特にそのための勉強というのは、していませんでした。今回は、高いスコアだと就職活動に有利ということもあるのですが、卒業までには800以上のスコアを取るというのが私の目標なので、計画的に勉強しました。

2年次のスコアを見た時は、落胆しました。1年次のよりも下がっていたのです。特に、TOEICのための勉強もしていなかったのに落胆した理由は、2年生のTOEICを受けるまでの間を通して、自分の英語力は上がっているだろうと思い込んでいたからです。2年次では、夏、カナダに語学研修に行き、帰国後も、生の英語に触れようと、積極的に国際関係のボランティアに参加したり、在仙外国人の方ともよく接したりしていたので、無意識のうちに自分の英語力は、上がっているだろうと思っていたのです。考えてみれば、あの頃、国際交流はよくしていましたが、机に向かう英語の勉強というのは、学校の予習や宿題以外では、ほとんどしていなかったことに気がきました。国際交流を通して、英会話力は上がったかもしれませんが、それ以外は上がっていなかったのです。勉強もしていないのに、スコアは上がっているだろうと思っていた自分を情けなく思ったのと同時に、外国人の方と英語で接するだけでは、総合的に英語は、上達しないということを実感しました。やはり、努力無しでは、良い結果は出ないので、次にTOEICを受験する時には、ちゃんと勉強をし、努力に値する結果を出そうと決意しました。

今回の勉強では、専用の問題集を購入したりはせず、自己流でやりました。まず、早い英語に耳を慣らすため、英語を、1日にできるだけいっぱい聴くようにしました。もともと洋楽を聴いたり、洋画や海外ドラマやテレビ番組を見ることは、好きなのですが、それらに加え、受験の2ヶ月前から、テレビの英会話講座と、普段は見ない海外ニュース番組を見始めたり、ほとんど毎日、ラジオ講座を聴いたりしていました。私が、見ていた英会話講座は、アメリカの語学学校での授業の様子をそのまま流しているものなので、自分も授業を受けている気分になり、無論、授業は英語で進められていくので、とても勉強になりました。ラジオ講座は、TOEICには、時事英語が頻出されるので、ビジネス英会話を聴き、またこの番組の後

には、英語ニュースが流されるので、これも聴きました。

私は、自分の英語ノートというものを、作っています。海外ドラマや映画の会話、学校での授業、または、外国の方との会話を通して、ためになりそうだった英単語やフレーズをメモし、ノートにまとめるのです。これは、1年の時からやっているのですが、今回、すべてを暗記するようにしました。見直す度に、そのドラマ、映画、自分が出会ってきた人などに加え、その頃にあった出来事までを思い出してしまうところが、このノートの面白いところだと思います。

今回、努力が報われ、100点以上上がるという良い結果となったのですが、リスニングとリーディングの差が大きいが、問題です。この2つを平等にするためには、リーディングの方が低いので、読解力、速読力が必要となります。次回は、目標達成を目指し、リーディングのスコアを上げるために、読む方に力を入れて、勉強していきたいと思っています。

わたしの TOEIC 学習法

英文学科2年 山家 奈央

二年次スコア 635点 一年次スコア 530点

私をはじめ TOEIC を受けたのは一年生の TOEIC の授業でした。それは実際の時間配分とは違うものでしたが、内容は変わりありませんでした。なんでこんなに難しいのだろうと感じたのを良く覚えています。スコアを渡されたとき自分の英語力がこんなものなんだ、とショックを受けたことを覚えています。自分は今まで人よりは英語が少し得意だという自信があったからだと思います。

私が最初にした勉強は、問題集を買って問題形式に慣れることでした。この問題集には、実際のテストの流れに沿いながら文法、読解、イディオムの説明がかかっているものです。私はこれを何度も使いました。単語に関しては使われている単語ほとんどを覚えました。次に TOEIC の勉強会に参加しました。文法は結構一人で理解するのが大変ですが、ここでは丁寧にわかりやすい説明で授業が行われたのでかなり文法をモノにすることができたと思います。また少人数制で行われたので、質問がしやすかったし、たくさんの質問がでたので大変面白い授業になりました。最後に私が一番大切だと感じていることについて話そうと思います。あなたは春休みや夏休みなどの長期の休みをどう過ごしていますか？この休みの期間こそ自分がどれくらいがんばれるかのミソだと思います。私の場合は毎日かかさず単語を覚えたことです。一日何個覚えるとノルマを決めて週の終わりには復習して忘れないように心がけました。今振り返るとこのときの単語勉強でかなり単語力が身についたと思います。また今年の冬休みには周りの友達を誘って勉強会を開きました。主に英語であるトピックについて意見を交換することに重点をおいたものです。初めて自分たちだけで計画したのでどうなるものかと不安でしたが、結果は大変意味のあるものになりました。私は積極的になって取り組むということの大切さを学んだと思います。もちろん春、夏休みもまた計画を立てて続けていこうと思っています。

今回私は600点台という第一段階突破することができましたが、わたしの最終目標は800点台になることなのでまだまだしなくてはいけないことがたくさんあります。特にあまりリスニングが上がらなかったので次回はリスニングに重点を置いた勉強をしていくつもりです。大学生活は後二年しかありません。もう一度自分がなぜ大学まで進んで勉強しているのか考えてみてください。きっと英文学科の学生は英語が好きでもっと勉強して自分の英語を改善したいと思っています。そのために今自分が出来ることをしてみてください。

「継続は力なり」

英文学科4年 泉 菜穂子

四年次スコア 640点 三年次スコア 550点 二年次スコア 485点 一年次スコア 425点

『TOEIC に挑戦!』を読むと、よく「私は特に TOEIC の勉強はしませんでした。」と言っている人がいますが、私も特に TOEIC の勉強はしていませんでした。確かに英文学科主催の TOEIC の勉強会に参加したり、そこで使った TOEIC のテキストにある問題をひと通り解いたりして力にはなったと思いますが、私の TOEIC のスコアが上がった理由はもっと他にあると思います。

それは何かというと、友人と一緒にいった英語の勉強会だと思います。その勉強会では、基本的に英語だけを使い一切日本語は使いません。勉強内容は、洋画を英語字幕で鑑賞したり、その映画の内容から問題点を見つけてお互いに意見を交換し討論をしたりします。その討論もちろん英語で行います。また、ネイティブスピーカーの小学生が読むレベルの小説を読んだり、図書館にある NEWSWEEK の英語版を読んでその要約を書いたり、ライティングのテクニックを勉強したりしました。私達は特に文法のテキストや単語帳を買ってそれをひたすら解いたり覚えたりするということはありませんでしたが、私の英語力はその勉強法で着実に上がっていきまし、またその勉強会に参加したことで勉強の仕方を学ぶことが出来ました。今振り返って考えてみると、「書く・読む・聞く・話す」を総合的に行ったことが TOEIC のスコアの向上に繋がったのだと思います。もし TOEIC のスコアを上げたいと思ったら「書く・読む・聞く・話す」を総合的に勉強することをお勧めし

ます。このことは英語だけではなく他の言語にも言えると思います。

それから、勉強会の他に私の英語力を上げるのに不可欠だったものがあります。それはやる気のある友人達です。私の周りには英語を勉強することにとっても熱心な人が多く、私が英語を勉強する上で大変刺激を受けました。彼女達が勉強しているところを見ると、私が勉強に対する意欲を無くしている時は意欲を取り戻せることが出来、意欲がある時はお互いに励まし合いながら自らをさらに高めていくことが出来ました。また、幸い TOEIC のスコアが 800、900 点台の友人と一緒に勉強をする機会に恵まれ、彼女達の英語に慣れていく事で私の英語力も自然に向上していったのだと思います。これらの友人無しでは私の TOEIC のスコアは上がらなかったと思います。TOEIC だけに限らず何かを達成したい時に自分の周りに同じ目標を持っている人や意欲がある人がいるかどうかは大変重要です。そういう人が周りにいるかないかで結果は全く変わってくると思います。一人で勉強することも必要ですが、たまにはグループで勉強してみるといいかもしれません。

私は今回 TOEIC II の単位を取ることが出来ました、英語を専門として勉強している身としてはまだまだ低いスコアだと思います。これからも、TOEIC のスコアが上がったからと言って気を緩めて勉強を疎かにするのではなく、より貪欲に勉強に励み自分を英語漬けにしていきたいと思います。「継続は力なり」です!!

日々の英語学習

英文学科 4 年 千葉 聡子

四年次スコア 615 点 二年次スコア 425 点 一年次スコア 350 点

大学に入学後、英文科に籍を置いている私の周りには、授業のテキスト・ネイティブの先生など英語があふれていました。英語が好きで英文科に入学した私にとっては満足のできる環境でした。ですが今振り返ると、十分な環境の中にあっただにもかかわらず、私はそれを十分に活かし切れていなかったように思います。もちろん授業にはきちんと出席し課題もこなしていました。ですがそれ以上のことを自ら積極的に吸収しようという熱意が足りなかったのではないかと思います。

私の英語学習を大きく変えたのは、二年生の春休みを利用してホームステイをしながら語学学校に通った2ヶ月間のロンドンでの生活でした。英語を介したコミュニケーションの楽しさを知ると共に、自分の英語力の低さを痛感しました。

それ以降、私は英語のスピードと音に慣れる事と、語彙を増やす事にポイントを置いて学習を進めました。ラジオやテレビの英会話番組やニュース番組は、私にとって効果的だったと思います。ラジオやテレビを聞きながら分からない単語はメモをして、後で調べノートにまとめ学習しました。授業においてもテキストの分からない単語は同様にまとめていました。ニュースは専門用語も多いため易しくはありませんでしたが、音に慣れるためにはいい方法でしたし、これを続けることで徐々に分かる専門用語も増え、聞くのが楽しくなりました。そしてラジオを MD に録音し移動の時に聞き、英語を耳にする時間を多くするようにもしていました。

また私は飽きっぽい性格なので、英語学習のモチベーションを維持するために、英会話学校に通い学んだことを実際に使う時間を設けました。また学外でも TOEIC を受験し、自分の英語力を定期的に把握し、自分を刺激しました。

英語力はすぐに結果として表れるものではありません。そのため英語学習には、目的意識とモチベーションを維持することが重要だと思います。そして英語学習が楽しいと思える気持ちも大切だと思います。また日々の生活の中には英語学習として取り入れられることが多くあります。映画や音楽などをうまく取り入れながら、私は今後も日々の学習を大切に英語力に磨きをかけていきたいと思います。

日々英語生活。

英文学科 3 年 成田 志乃

三年次スコア 625 点 二年次スコア 515 点 一年次スコア 360 点

今回、「卒業までに600点は必ず突破する」という目標を達成でき、とても嬉しく思います。私は初め、「TOEIC 対策」としての勉強を意識していましたが、ある時期からはそれにこだわらずに、とにかく日常的に英語に触れようと心がけてきました。そのうちのいくつかを紹介します。

まず、受験前と長期休業には単語帳を必携し、通学中や空きコマなどのこま切れ時間を使って覚えました。私はある程度厳しい状態におかれないとなかなか実行しないタイプなので、「1日何文、何ページやる」といったようにノルマを決めて取り組みました。1冊を何度も繰り返すのが効果的だと思います。単語帳は「DUO 3.0」という高校の授業で使用していたもので、私にとってはかなりの優れものです。文で覚える構成になっており、熟語も数多く収録されているので、索引を利用して日頃辞書としても使えます。

次に、私の趣味でもある映画鑑賞です。私の家は WOWOW に加入しており、映画を観たい時にいつでも観ることができます。録画して後でまとめて観る、というのがほとんどですが、その場合、面白いものは保存して何度も観ることが可能ですし、同じものを何度も観、聴くことによって、聴き取れなかったセリフが聴き取れるようになってきます。字幕なしで観

ることはまだ無理なので、耳で聴きつつ、目で字幕を追うといった感じです。WOWOW ではグラミー賞やアカデミー賞、海外ドラマも放映してくれるので、かなりおすすめです。

他には、NHK で夜11時から放映されている英語番組を日課として観たり、洋楽ミュージシャンのホームページを開いて英文を読んだり、長期休業中に英語で日記を書いたりもしてきました。これからはペーパーバックや英字新聞を積極的に読んだり、ニュース英語を聴いたりしたいと思っています。

始めの方に「ある時期からは、、、」と書きましたが、「ある時期」とはまさに2年の夏に参加したカナダでの海外研修です。私はこの体験で、英語に対する姿勢が一変しました。カナダでは自分の英語力のなさを痛感し、悔しい思いをたくさんしました。しかし、得たものも多くあります。英語を学習することの面白さ、コミュニケーションの大切さ、失敗を恐れずに挑戦すること、、、。もしあの時、「悔しい」と思っていなかったら、今の自分はないと思うし、2年生という時期に体験したからこそ、自分にとって良かったと思うのです。カナダでの体験が、私に「努力すればきっと報われる」という希望を与えてくれたし、今でも私の英語学習の活力となり続けています。

私には卒業まであと約1年あります。さらに上を目指して努力し続け、充実した英語生活を送っていきたいと思います。